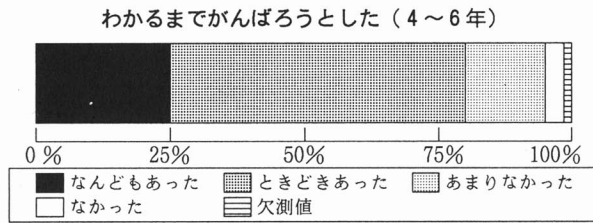


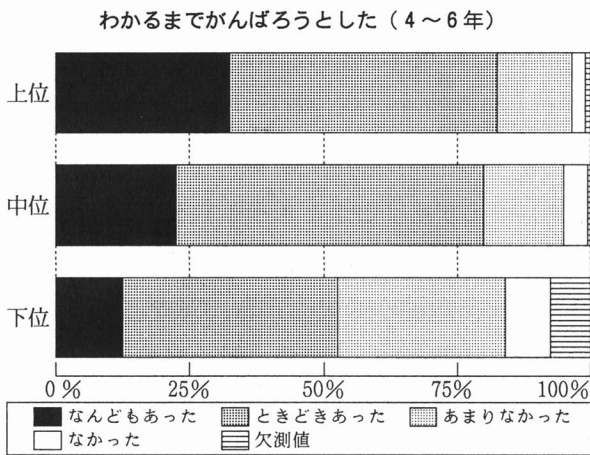
(2) 授業の中での意識

わかるまでがんばろうとしている



わかるまでがんばろうとする児童は、「なんどもあった」「ときどきあった」を合わせて、80.4%になる。

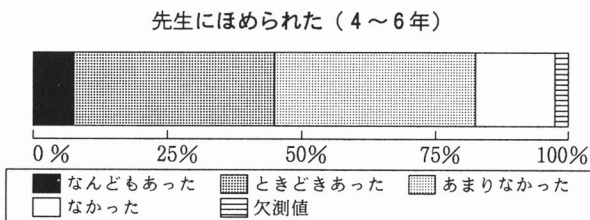
これを国語の成績との相関で見てみる。



上位児・中位児とも80%を越えている。しかし、下位児は51.3%と低い。下位児がねばり強く学習していくよう、指導に当たっていかなければならない。

では、教師とのかかわりではどうであろうか。

ほめられたことがないと感じている児童がいる。

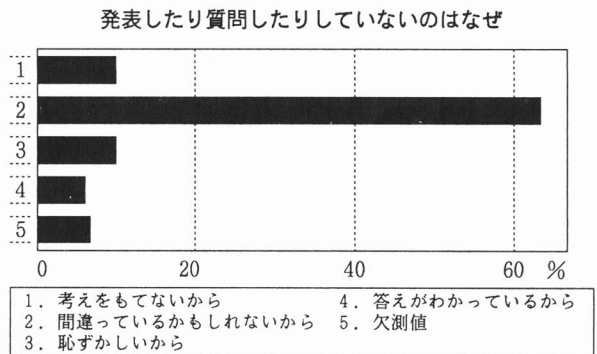
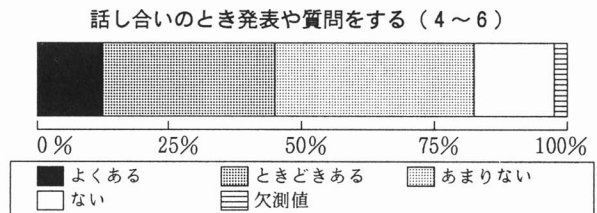


先生からほめられたとする児童は44.4%であり、半数を割っている。また、「なかった」とする児童が15.6%となっている。（グラフにはあげていないが、国語の成績との相関で見ると、下位児が19.2%と最も多い。）

ほめられたことがなかったと感じている児童が多いことは、今後、指導面で配慮が必要となる点である。

(3) 授業の中での行動

自信がなくて発表できない



発表や質問をしていない児童は、「ない」「あまりない」を合わせて、52.1%であり、半数を越えている。「ない」「あまりない」の児童に、そのわけを聞いた結果がその下のグラフである。「間違えるかもしれないから」が最も多く、66.3%に上っている。（グラフにはあげていないが、上位児・中位児・下位児とも、「間違えるかもしれないから」が最も多い。）

ところで、ここで「国語の授業中、友だちの考えを知って自分の考えが変わった」のグラフを見してみる。